

作成日：2023/08/31  
改訂日：YYYY/YY/YY

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称、品番 : 補修用パテ 7 E 3 4 1 S - Y G N

供給者の会社名称 : パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社

住所 : 大阪府門真市大字門真 1048 番地

電話番号 : 06-6908-6563 (水廻りシステム事業部 商品開発部)

項目 2 以降については別添参照

作成日 2015年6月29日  
改訂日 年 月 日

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

商品名 補修用パテ7E341S-YGN  
会社名 公進ケミカル株式会社  
住所 静岡県浜松市浜北区中瀬8310番地  
担当部門 製造部技術グループ  
電話番号 053-588-5541  
FAX番号 053-588-1439  
推奨用途及び使用上の制限 FRP成形用材料  
商品コード 5101518

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	可燃性固体	区分1	
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外	
	急性毒性(経皮)	区分外	
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分5	
	皮膚腐食性/刺激性	区分2	
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2A	
	皮膚感作性	区分外	
	生殖細胞変異原性	区分2	
	発がん性	区分2	
	生殖毒性	区分1B	
		特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1
		区分3	気道刺激性
	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1	肝臓、血液系、呼吸器、神経系
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	区分外	
	水生環境急性有害性	区分2	
	水生環境慢性有害性	区分外	
	上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない		

#### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



#### 注意喚起語

危険有害性情報

危険  
可燃性固体  
吸入すると有害のおそれ(蒸気)  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
遺伝性疾患のおそれの疑い  
発がんのおそれの疑い  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
中枢神経系の障害  
呼吸器への刺激のおそれ  
長期ないし反復暴露による肝臓、血液系、呼吸器、神経系の障害  
水生生物に毒性

#### 注意書き

安全対策

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。  
容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
指定された個人用保護具(保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面)を着用すること。

応急措置	<p>ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。          屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。          取扱後は手、顔をよく洗うこと。          この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。          環境への放出を避けること。          火災の場合：消火に炭酸ガス、泡又は粉末消火器を使用すること。          皮膚（または髪）にかかった場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ、多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。          吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体制で休息させること。          飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。          眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。          ばく露またはその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。          気分が悪い時は、医師に連絡すること。          吐かせないこと。</p>
保管	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
廃棄	施錠して保管すること。 内容物、容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別  
 化学名又は一般名  
 成分及び含有量

混合物  
 ポリエステル系パテ

成分	含有量(%)	化学式	官報公示整理番号 登録済み	CAS No. 登録済み
不飽和ポリエステル樹脂	40～50	—		
Pigment Brown 24	<1			68186-90-3
コバルト化合物	<1			
スチレン	38	C <sub>8</sub> H <sub>8</sub>	(3)-4	100-42-5
酸化チタン	6～16	TiO <sub>2</sub>	(1)-558	13463-67-7
シリカ	1～10	SiO <sub>2</sub>	(1)-548	69012-64-2

## 4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休憩させ毛布等で保温して安静にさせ、状態が悪い時は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに全ての汚染された衣類を脱ぎ、皮膚と接触した場合は直ちに多量の水または石鹼水で洗う。 炎症が生じた場合は医師の手当てを受ける。
目に入った場合	直ちに多量の流水で15分以上洗眼し、速やかに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないで直ちに医師の手当てを受ける。口をすすぐ。
最も重要な兆候及び症状	目・皮膚の痛みや発赤、腹痛、嘔吐、頭痛、意識低下、肺水腫
応急措置をする者の保護	適切な保護具を着用する(8. 暴露防止及び保護措置項参照)
医師に対する特別な注意事項	医師の手当てを受ける時は、本SDSを提示する等情報を提供する。

## 5. 火災時の措置

消火剤	粉末、泡、噴霧水、炭酸ガス、乾燥砂
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	燃焼または高温下で有毒なガス(一酸化炭素)が発生する可能性がある。
特有の消化方法	初期の火災には、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を用いる。大規模火災の際には、泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。 周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却する。移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具を着用し、風上から消火活動を行う。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止とし、風下の人を退避させる。 作業者は必ず保護具(手袋、防毒マスク、防毒衣、保護眼鏡)を着用する。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	漏出した液が環境中(下水、排水溝、地下)への流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法・機材	万一公共用水域等に流出した場合、必要な時は関係行政機関に連絡する。
二次災害の防止法	少量の場合は布や砂等で直ちに拭き取り、容器に収納する。 大量の場合は土砂等で堰を作って流出防止を図り、可能な限り回収する。 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
7. 取り扱い及び保管上の注意	
取り扱い	
技術的対策	保護具を確実に着用する(8. 暴露防止及び保護措置項参照) 火気、火花、アーク、高温のもののような着火源から遠ざけること。 静電気対策を行い、防爆型の機器を使用すること。
局所排気・全体換気	容器は常に密閉し、通気性の良い場所又は局所排気、全体換気装置の付いた場所で作業する。
注意事項	蒸気を発生させないようにする。
安全取り扱い注意事項	容器を転倒、落下させて衝撃を加える等の乱暴な取り扱いを行わない。
保管	
技術的対策	保管場所は耐火構造とし、床は床面に水が浸入しない構造とする。
適切な保管条件	容器に漏れの無いことを確認する。危険物施設に施錠して保管し、火気を近づけない。
安全な容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
8. 暴露防止及び保護措置	
設備対策	局所排気装置、防災シャワー、手洗い、洗眼設備の設置
管理濃度	作業環境評価基準 20ppm(スチレン)
許容濃度	日本産業衛生学会(2006年版) 20ppm(スチレン) ACGIH(2006年版)
	時間加重平均(TLV-TWA) 20ppm(スチレン)
	時間暴露限界(TLV-STEL) 40ppm(スチレン)
保護具	
呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク
手足の保護具	保護手袋・長靴(有機溶剤不浸透型の静電気対策を施したものが望ましい)
目の保護具	側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具	有機溶剤不浸透型保護衣(静電気対策を施したものが望ましい)
9. 物理的及び化学的性質	
外観	固体
臭い	スチレン臭
pH	データ無し
融点/凝固点	-30.6°C(スチレン)
沸点	145°C(スチレン)
引火点	31°C(スチレン)
自然発火温度	490°C(スチレン)
燃焼又は爆発限界	下限:0.9% 上限:6.8%(スチレン)
蒸気圧	0.7kPa(20°C スチレン)
蒸気密度	3.59(スチレン)
比重	1~1.5(25°C)
溶解性	水に不溶、アセトン等の有機溶剤に可溶
オクタノール/水分配係数	log Pow=2.95(スチレン)
分解温度	データ無し
10. 安全性及び反応性	
安定性	通常の条件においては安定
危険有害反応可能性	熱、光の照射、また過酸化物との接触により重合反応を起こし発熱する
避けるべき条件	高温、加熱、直射日光
混触危険物質	過酸化物、強酸化剤、強還元剤、強アルカリ
危険有害な分解生成物	データ無し
11. 有害性情報	
急性毒性(経口)	PBr24(区分外)、スチレン(区分5)、シリカ(区分外)、酸化チタン(区分外)であるが、製品は区分外に分類される。

急性毒性(経皮)	含有各成分の区分が「分類対象外」または「分類できない」または「区分外」またはカットオフ値未満の含有であるため、製品は区分外とした。
急性毒性(吸入:蒸気)	スチレン(区分4)であるが、製品は区分5に分類される。
皮膚腐食性/刺激性	PBr24(区分外)、スチレン(区分2)、酸化チタン(区分外)であるが、製品は区分2に分類される。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	スチレン(区分2A)、シリカ(区分外)、酸化チタン(区分2B)であるが、製品は区分2Aに分類される。
皮膚感作性	皮膚感作性をもつ成分のうち、カットオフ値(0.1%)以上含まれる成分が無いため区分外とした。
生殖細胞変異原性	区分2に該当する成分(スチレン)が、カットオフ値(1%)以上含まれるため、区分2とした。
発がん性	区分2に該当する成分(スチレン)が、カットオフ値(0.1%)以上含まれるため、区分2とした。
生殖毒性	区分1に該当する成分(スチレン)が、カットオフ値(0.1%)以上含まれるため、区分1Bとした。
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1に該当する成分(スチレン)が、カットオフ値(1%)以上含まれるため、区分1(中枢神経系)とした。 区分3に該当する成分(スチレン)が20%以上含まれるため、区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1に該当する成分(スチレン)が、カットオフ値(1%)以上含まれるため、区分1(肝臓、血液系、呼吸器、神経系)とした。
吸引性呼吸器有害性	スチレン(区分1)を10%以上含んでいるが、動粘性率が20.5mm <sup>2</sup> /sより大きいので区分外とした。
<b>12. 環境影響情報</b>	
生態毒性	
水生環境有害性(急性)	PBr24(区分外)、スチレン(区分2)、シリカ(区分外)、酸化チタン(区分外)であるが、製品は区分2に分類される。
水生環境有害性(慢性)	スチレン(区分外)、シリカ(区分外)、酸化チタン(区分4)であるが、製品は区分外に分類される。
<b>13. 廃棄上の注意</b>	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去すること。
<b>14. 輸送上の注意</b>	
国際規制	
国連分類	クラス4.1(可燃性固体)
国連番号	1325
品名(国連輸送名)	可燃性固体 n.o.s
容器等級	II
国内規制	
陸上輸送	消防法及び道路交通法の規定に従う
海上輸送	船舶安全法の規定に従う
航空輸送	航空法の規定に従う
輸送の特別の安全対策及び条件	容器の輸送及び運搬は、落下、転倒、破損しないよう固定して積載すること 容器の輸送及び運搬中に、容器の著しい摩擦や動揺を起ささないよう注意する
緊急時応急措置指針番号	133
<b>15. 適用法令</b>	
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質 第240号 スチレン

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物(法57条の2 施行令18条の2 別表9) 第 38号 アンチモン及びその化合物 第142号 クロム及びその化合物 第172号 コバルト及びその化合物 第191号 酸化チタン 第312号 シリカ 第323号 スチレン
	名称等を表示すべき有害物(法57条の1 施行令18条) 17の2 スチレン
消防法	特別有機溶剤(特化則第2条第1項第3の2号、施行令別表第3第2号) スチレン
船舶安全法	危険物第2類引火性固体
航空法	可燃性物質
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理引別表第1の16項に該当するので、経済産業省のガイドラインの参照や事前相談が望ましい

## 16. その他の情報

問い合わせ先 公進ケミカル株式会社 製造部 技術グループ  
電話 053-588-5541 FAX 053-588-1439

## 参考資料

- 1) 原料メーカー発行のSDS
- 2) 溶剤ハンドブック
- 3) NITE(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)HP URL <http://www.nite.go.jp/>
- 4) 安全衛生情報センターHP URL <http://jaish.gr.jp/>
- 5) GHS区分は、経済産業省HPよりダウンロードしたGHS混合物分類判定システムを参考

記載内容は現時点で入手できる情報に基づいて作成しておりますが、新たな情報を入手した場合は、追加又は改訂されることがあります。注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また含有量、物理化学的性質は保証値ではありません。特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。当安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。